

あどぼけいと

HSK



1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号541号
 発行人=北海道障害者団体定期刊行物協会
 発行日=2017年4月10日(毎月10日発行)
 編集者=我妻 武
 ◇特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ
 〒063-0812
 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
 TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323
 ホームページ <http://npolife.net/>

2017年4月号

No.196 [April] 定価 100円

あどぼけいと【advocate】=すべての人がもつ権利を、障害などさまざまな理由で行使できない状況にある人に代わり、権利擁護のための活動を行っている人々の事。

自社ビル建設をめざす！ — まずは土地の確保から —

専務理事 石澤 利巳

2017年度にむけた抱負を、と編集担当から依頼があった。個人ではなく、NPOライフとしての抱負であるが、僕個人のことも含めて書いてみる。

昨年12月の夕方、自宅で突然胸の激痛に襲われ救急車で運ばれた。「急性大動脈解離」で緊急手術。夕方の6時頃から未明の1時過ぎまでの手術だったようだ。大動脈弓部から下に向かって10cm程度解離したらしい。土曜日に倒れ、目が覚めたのは火曜日の朝。3日間ほど意識がなく時差ぼけ状態が続いた。術後も血圧が下がらず、1週間ほど寝たきり状態。その為、筋力が大幅に低下し(脂身部分はしっかり残っているのだが)動くたびに「疲労感」が強く、「動く・休む・動く」の繰り返し、人生初のリハビリ体験。

3週間～ひと月は入院という担当医にお願いし、早期退院の施しを準備してもらい17日間の入院生活で娑婆に復帰できた。まだまだ体力も気力も不足だが、2月中旬からはみんなの支えもあり何とか職場復帰している。タバコは全面禁煙、酒は控えめに飲みながら生かされた時間を社会的事業所づくりにまい進したい。

年が明け1月7日、ライフの新年会を開催。大勢の来客もあり盛会だった。テーマは「ライフ自社ビル建設に向けて」である。

ライフとの関わりが浅い皆さんには、「何で突然自社ビル？」と驚かれていると思う。事実、知人友人から

も「そんな借金して大丈夫かよ」という声も届く。遡れば、「ワープロフロアー」や「おおぞら」という小規模作業所時代に、重度障害をもつ仲間の家族が、その仲間を入所施設に入れる意向があると知った。「地域に共に住める場所が欲しいね」という当事者の想いを実現するため、法人化、基金集め、建設地の確保に向けた活動を開始したのが1999年だった。これがライフの出発点である。残念ながら、当時の財政力ではみんなの希望を叶える事はできず、共に働く場作りに目標を変更。

アジール傍楽亭(はたらくてい)構想

あれから17年も経ってしまった。それぞれ歳を重ね、鬼籍に入る人や施設に入らざるを得ない人もいる。ライフは、この7～8年みんなの努力と敏腕事務長の力もあり財政的には少しばかり余裕が出来てきた(社福の内部留保に比べりゃ微々たるものだが)。同時に、共同住居の内部要求や社会的要求も高まっている。毎年支払っている地代家賃も琴似周辺だけで1300万円を越えている。現在の場所に移転して14年、支払った地代家賃も1億円以上。これらをいろいろ勘案した結論が「自社ビル建設」である。それも制度に縛られたもの(グループホーム等)ではない、民設民営のアジール(※)的建物である。移動困難を抱える人にとっては職住隣接型も必要。そして、いろいろな生きづらさを抱えている人や独り親家庭や高齢者(僕も入居したい)等に開かれた社会資源となる建物。名前は「アジール傍楽亭(はたらくてい)」がいいな。

オフィス・イマージュ以来、「必要なものは自分たちで

※アジールあるいはアサイラム(独:Asyl、仏:asile、英:asylum)は、歴史的・社会的な概念で、「聖域」「自由領域」「避難所」「無縁所」などとも呼ばれる特殊なエリアのことを意味する。ギリシア語の「συλον(侵すことのできない、神聖な場所の意)」を語源とする。具体的には、おおむね「統治権力が及ばない地域」ということになる。(ウィキペディアより転載)

創る」を実践してきた。改めて、ライフ設立時の目標である共同住居実現に向けて再始動した。不動産や建築等に関する協力会社や金融関係のバックアップ体制も出来つつある。まずは土地の確保である。150坪～200坪、交通アクセスのいい場所が望みだ。

仮称アジュール傍楽亭は、1・2階はショップや食堂・カフェ、作業場や事務所機能、3・4階には25室程度の居住部分を構想中。試算では総費用3億5千万円～4億円、25年の返済計画を検討。移転費用や税金等含め自己資金も必要となる。当面総費用の1割、4000万

円の基金確保を目標とする事を先の新年会で提案した。以前寄贈頂いた建設基金も当然繰り入れていく。同時に「自社ビル建設基金委員会」のような資金管理団体も必要となる。

建築準備に取り掛かってから完成まで1年半から2年近くの工事が予想される。今年の早い時期に土地が決まれば、2019年には完成が見込まれる。1989年に開設したワープロフロアから30周年。そして僕も66歳を迎える。後継者を育てる事も必要となっている。

それまでは元気でいなきゃ。

今年も エコフィスジャパン 株式会社様より ご寄付をいただきました

理事長 我妻 武

去る3月22日、エコフィスジャパン株式会社(札幌)の鈴木大二郎社長と中村佳史営業部長のお二人がライフ本部にお越しくださり、引き続きライフの皆さんのためにお使くださいと50万円のご寄付をいただきました。

当日は法人を代表して我妻が拝受いたしました。ライフからはお礼を込めて感謝状をお贈りさせていただきました。

こちらからは一緒にお仕事をさせていただいていることが働いている人たちの大きな自信と誇りになっていることをお伝えしました。



具体的には一生懸命に働いていることで、好きなものを買って、好きなものを仲間と食べることができる。だから頑張ってたまたま働く。あたり前のことかもしれないませんが、この喜びの声がメンバーからあったことをお伝えし、御礼申し上げます。

いただいたご寄付についてはライフの活動の中で大切にさせていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。

ECOoffice JAPAN エコフィスジャパン株式会社

資源回収を全国各地やアジアの一部で行っている株式会社松本光春商店の系列会社ですが、会社に利益があるときには社会に還元することも大切な役割としているそうです。

エコフィスジャパン株式会社とは、北海道イオンの一部店舗でのリサイクル事業でお仕事をさせていただきご縁もいただいています。いろいろ教えていただきながら楽しく仕事につながれば幸いです。

エコフィスジャパンホームページ

<http://www.ecofficejapan.co.jp/>



エコフィスジャパンは「さっぽろエコメンバー」に登録しています

札幌市では、環境にやさしい取り組みを自主的に行っている事業所を「さっぽろエコメンバー」として登録し、その活動を市民の皆さまにご紹介することにより、環境に配慮した取り組みの輪をさらに広げ、地球を守るよりよい環境づくり、まちづくりを目指しています。

拝啓 札幌市長 秋元 克広 様

札幌市の環境事業と入札制度をどう考えればいいのか？

専務理事 石澤 利巳

2010年4月、一般競争入札で受託した「札幌市リサイクルプラザ発寒工房、札幌市リユースプラザ及び地区リサイクルセンターの運営管理業務」(以下、環境事業)は、今年度もライフが受託者となった。今までは3年毎の契約だったものが、今年度は2年半の契約となり2019年9月末迄という中途半端な期間となった。

この環境事業は、市民がリサイクル希望する大型ごみ(主として家具、自転車)を修理し、修理されたリサイクル品を市民に格安で提供するという、全国的にみても極めて優れた大型ごみのリサイクルシステムである。同時に、ごみ減量・リサイクル・リユースの普及啓発を行う等、環境にやさしい街づくりに貢献する事業でもある。また、3地区にあるリサイクルセンターは、市民が持ち込んできた指定資源物の仕分や保管業務等を行っている。ライフはこうした事業を一括で受託している。

本事業には、こうした環境事業とあわせ、受託者には障害者雇用を義務付けし、障害者や高齢者の働く場の創出としての意義も大きい。様々な働き方のスタイルがあるが、この事業全体で障害者6名を含む30名弱の人たちが働いており、環境保全と障害者等の雇用を結びつけた、まさに「社会的事業」なのだ。

修理部門の発寒工房で19年、普及啓発、展示即売のリユースプラザで9年の歴史があり、市民に定着したリサイクル・リユース事業といえる。ところが、「食品ロス」が課題となれば重点政策もその方向に流れ、本事業への行政的関心度が低まっている感がある。その結果、今年

度からは、大型家具の修理(リサイクル化)を廃止し、リユース品だけの取り扱いという方向になった。

環境政策は、かつての大量生産・大量消費の反省に立って推進されていると思うが、時としてブームに流され、環境施策が移り気になってしまうことを懸念する。それは同時に、雇用にも大きく影響することを(これは環境政策に限らないのだが)、委託者である行政はしっかり認識して欲しいものだ。

以前より、公共事業の競争入札において、価格競争主義がワーキングプアを生み出しているという指摘がある。札幌市の入札制度も、総合評価制度を取り入れているというが、障害者雇用等のポイントは低く、総じて低価格争いの傾向は免れない。積算根拠となる労務単価も低い結果、受託者が働く人への配分を年収200万円以下とせざるを得ない実態である。けして、受託事業者が悪徳なのではなく、そもそも低価格に問題がある。果たして、そんな低価格で公共事業の受託事業で働く人がどれ程いるだろうか。

大型ごみとして出される家具も、年々リサイクル出来ない粗悪な材質のものが増え、再び使い捨て時代に入ったと予感することがある。物の使い捨てがヒトの使い捨てに繋がってはならない。委託者も受託者も互いに知恵を出し合い、せつかくの優れたシステムを継続していけるようにしたいものだ。

秋元市長、何か良い方法はありませんか？

共同連全国若手研修会報告 きばりや 加藤 信一

3月11・12日の二日間にわたって、生涯活動センターわっぱーれ やまぐちに於いて研修会が行われました。DVD鑑賞・講演・グループディスカッションなどをふまえて私の感覚で得たものを述べたいと思います。

私が最も衝撃を受けたのは「生まれ変わっても障害者として生まれたい」という言葉でした。その真意が分からず、それはどういうことなのかと質問させていただきました。それに対して「健常者であっても障害者であっても人生を楽しく生きる」ということを述べられておりました。健常者側からも、1秒先に自分が障害者になる可能性だってある、という発言もありました。困りごと、悩みごとは、どこの事業所からも問題提起されますし、私も自分の感じている健常者と障害者の物の価値観の違いなどを発表いたしました。やはり完璧な人間などいない。いかに他者を尊重して理解するか?ということの大切さにも気づかされました。

若手が集まって、新しいアイデアを出すことは多いに大切なことであり、たくさんのヒントもいただきました。私は、鷹の目と魚の目、つまり上から大きく眺めるチカラと下から細かく細分化して見ること、つまり細分化して実際に「見える化」しグラフやデータで分析することの必要性など私のこれからの取り組みに多いに参考になる情報をいただきました。そして私自身、障害者スタッフとして楽しく生きていく材料にもなりました。

今回の研修会に参加させていただきましてライフの皆さんに感謝いたします。加えて、あまり体調のよろしくないなか研修会をまとめていただいた坂本さん、超方向音痴の私にスーパーナビをしていただきました高井さん、ありがとうございます。諸先輩の今までに築いてこられたことに敬意を表しまして、これからの共同連、ライフに希望をいただいた研修会でした。ありがとうございます。

追伸:私はあまり若手ではありません(笑)

介護ってやっぱり家族がするものだと思いますか?

コン・プリオ・ひだまり 児島 義秀

障害者に関わらず子供は小さい頃から大抵母親が面倒をみますが、子供が成長するにつれて、母親も老いてきます。自分の子供だからという責任感と、障害者を生んでしまったという罪悪感が少なからずあると思うんです。だからといって自分が死ぬまで面倒みるのか、死ぬ時は一緒にというわけにもいかないでしょう?この前30代の知的障害を持つ娘を60代の母親が介護疲れから殺害してしまうという、痛ましい事件がありました。

逆に子供が親をみることもあります。こちらのほうが厄介なことがおきやすいと思うんです。これはなんの根拠もない個人的な考えなんです。もともと障害のある子を見てきた親と、なんでもなかった親がジジババになって何らかの障害や痴呆になって面倒をみる子供、どちらがストレス等を抱えてしまうかと考えると、どちらも大変なんです。親をみるほうだと思う

んです。なんでか?言葉悪いですけど子供は言うこと聞かない時は、叱れてゲンコツ「ゴンっ」で言うこと聞きますが、親はそうはいきませんよね?だからストレスがどんどん大きくなって「ボンっ」と爆発すると虐待だの殺人にまでなってしまうと思うんです。

そうなる前にヘルパーなりショートステイなりの力を借りて、少しでも自分の時間が出来れば、ストレスを解消出来ると思うんですが…



《映画レビュー》

幸福は日々の中に○

もじや 西田 彩

3月17日、シアターキノにて「幸福は日々の中に。」が限定上映されました。

この映画は、鹿児島市吉野町にある知的障害者施設「しょうぶ学園」と、学園を生み出し、守り支え続けてきた福森家の人々のドキュメンタリーとして2015年に制作されたものです。

私がしょうぶ学園のことを知ったのは、2013年のことです。ファッションブランドのTVCMに、障害者の演奏する音楽が起用されたという記事を見て調べてみると、しょうぶ学園のパーカッションバンド「Otto & Orabu」でした。このバンドのライブ演奏の様子は、映画でも観ることができます。こうした音楽活動の他にも、アートやクラフトの創作活動、施設敷地内におけるカフェや蕎麦屋、ギャラリー、オリジナルショップの運営など、多彩な取組とそのクオリティの高さに驚き、衝撃を受けました。

しかし映画の中では、そういった取組の詳細にはあまり触れておらず、あくまで施設の日常の様子や創作活動に打ち込む姿などの、ゆったりとした美しい情景が73分にわたり映し出されます。具体的な言葉で「障害」に言及することも少なく、そこにも大きな意図を感じました。観る人によってさまざまな受け取り方、考え

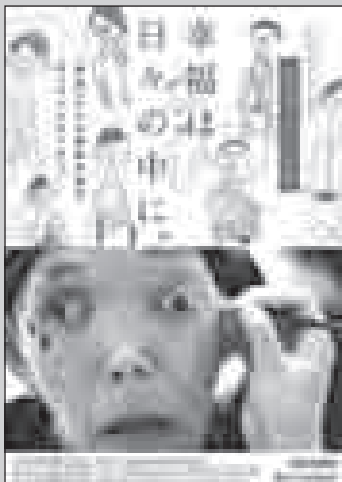
方ができる素敵な作品だと思いました。

そして今回、限定上映とはいえ会場からあふれるほどの来場者にも驚きました。入場できなかった方のために、3月30日にアンコール上映がされたようです。31日には夕張市でも自主上映会が開催されています。音楽も映画も大ヒット…最近ではインテリアショップのIDEE(イデー)や無印良品とのコラボレーション企画なども…羨ましいかぎりです…。

こうした活躍の理由には、やはりプロモーションやディレクションのクオリティの高さがあり、実際にしょうぶ学園の活動には多くのクリエイターやプロフェッショナルが共感し関わっています。「福祉」というカテゴリーを超え、様々なジャンルとつながっていくことで活動の輪が広がり、結果的に「障害」に対する非常に大規模なポジティブ・キャンペーンになっているので、とても参考になります。

以前もじやで「知的障がいのある方とのコミュニケーションハンドブック」の企画制作に携わった時、課題となったのが「心のバリアフリー」です。スロープやエレベーターの設置など、物質的なバリアフリーは推進できても、情報やイメージ・考え方などのバリアフリーは、なかなか社会に浸透しないということです。そんな中で、この映画からはたくさんのヒントを得られたような気がします。

気になった方は是非、しょうぶ学園の作品や活動をチェックしてみてください！



幸福は日々の中に。

監督・脚本・撮影：茂木綾子、ヴェルナー・ペンツェル

園生が楽器を弾き、叩き、叫ぶotto&orabu、ひたすら布と糸と遊ぶnui project、そして魅力に溢れた多様なクラフトワーク。美しい園内には、アトリエに加えて、カフェレストラン、ベーカリー、蕎麦屋が点在し、今日も園外からのお客様が引きも切らない。ここには、これまで私たちが見たことがない風景が広がっている。きれいな事ではすまされない福祉事業の運営において、しょうぶ学園が取り組んできた活動は、今を生きる私たちにさまざまな問いを投げ掛ける。普通ってなに？ 優しさってなに？

【映画特設サイト】

<http://silentvoice.jp/whilewekissthesky/>

就労継続
支援事業
A型

共働事業所 きばりや

農業/軽作業

■農業 ■ポスティング ■DM発送 ■軽作業 ■その他委託業務



カフェ・ド・キバリヤ

Cafe de Kibariya

喫茶

■カフェ、ランチ、スイーツなど ■食品販売

☕ もうすぐ…

カフェ・ド・キバリヤ 若森 舞子

ある日ふと気がつけば、隣にいつもいる人達の顔ぶれが変わっていて、一年前は無理だと決めつけていたことでも、できるようになっていたたり、指示されて動いていた立場だったのが、逆に指示するようになっていたり、先輩後輩的な関係が今ではすっかり支え合う仲間になっていたたり。

同じことを毎日繰り返しているようでも、実は常に移り変わり続けていて、一瞬も同じ時間はなくて、一日一日を大切にしなければいけないな~とつくづく感じる今日この頃です。

そんな…カフェドキバリヤは、この5月に10周年を迎えます。今年から新しい顔ぶれも加わって、カフェは今後も面白く変わり続けていくことでしょう!

今後もっと、それぞれの個性や魅力を出しつつ、思いやり合いながら、たくさんのお客様に笑顔と感動を与えられるようなカフェを目指していきたいと思っています。



☕ カフェ・ド・キバリヤ 10周年

カフェ・ド・キバリヤ 山本 滋基

今年の5月16日でカフェがオープンして10周年です。10周年にむけて、新しいメニューを出そうと考えてます。

今年1月から西田さんと青木さんが入って門田さんが1月末でやめました。全員で7人でやってます。

今年も元気でがんばりたいです。

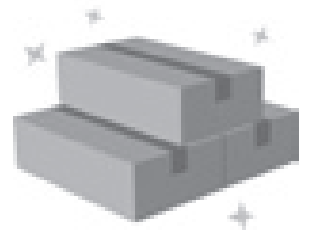


📦 梱包の仕事

きばりや 石川 和寛

毎年3月中旬にもじやから帳票梱包の仕事がきます。病院や会社に伝票などを丁寧に包む仕事で多い時では600件近くを2日がかかりでやります。

送るんだつたら、もつと丁寧に包むべきだったと反省しています。



Cafe de Kibariya

カフェ・ド・キバリヤ

今月のおすすめ!

昨年に引き続き、大好評をいただいている「おしるこ」です。

きばりやの畑で、農薬、肥料を使用せず、自然栽培で大切に育てられた豆を贅沢に使用。写真は、小豆&金時豆ですが、白花豆と牛乳でつくった白いおしるこも予定しています。

量にかぎりがあり、短期間でのご提供になりますので、お早めどうぞ~!!



《おしるこ》 360円



生活介護事業 **こころや**

お米販売／軽作業

- レクリエーション ■アート活動
- お米の卸し・販売 ■軽作業

札幌南高校定時制員内不合格抗議行動 小黑 悠佑

3月21日、昨年に引き続き札幌南高校定時制員内不合格へ対する抗議行動に、こころやの小黑、大堀、佐藤、山口、山本で参加してきました。

13時から南高校で校長先生、14時30分から道教委にて教育長の同席のもと抗議を行いました。高校では抗議文を受け取るのみで終わり、道教委では、最終的に高校側の判断なので何も言う立場にないとの返答でした。

※Aさんは4月5日に札幌近郊の定時制高校に合格しました。

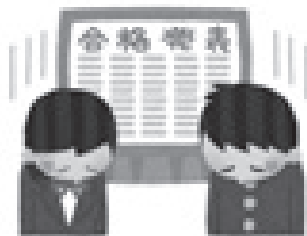
今日南高にいきました 山本 守一

Aさんが南高の受験を受けたけども、去年も受けて、今年もダメだった。

事前に南高に見学に行つて、校長とも面談をしたけれども今年もダメだった。

どうしてなのかな？定員が少ないわけではない。障害があるからなのかな？それならば去年のうちに「あなたにはここは難しいからほかを探してくれないか」と言えなかったのだらうか。Aさんは見学に行つて学校の色々を教してもらって期待してしまつたはずだったのに。

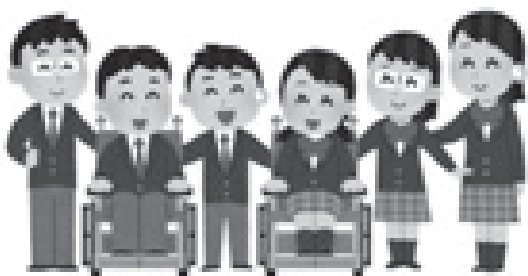
それがわからなかつた事が残念です。



南高道教委抗議について 山口 敏明

今回も南高にて自分自しんが思った事は、今年も受けたことよりも少し考え方を見なおしたらいいと思う。それはトクシユ学校でも受けた方がよかつたかもしれません。一般の高校よりも少し考え方しだいだと思います。

これからもはげみになるような生活を作れたらよいと思いました。



ありがとうございました

寺嶋 峰子

やっとあたたかい季節になって来ました。

この時期になると靴に困ってしまいます。私の住んでいる所は、まだまだ雪が多く、冬靴が必要です。あともう少し冬を楽しむ事になりそうです。

私事ですが、このたび退職する事になりました。

リサイクルショップぼけっとからオフィスイメージへ、そしてライフと働かせていただきました。きっかけは、子供を保育園に入れるためをお願いした事からです。その子も29才になります。

障がいを持った人達と働くのは初めてでしたが、明るさとたくましさで驚かされました。子どもも障がいを持っているので、その姿を見るととても励まされました。

それからあっという間に年月がたち、今に至ります。体力的な事も有り、去る事にしました。

本当にお世話になりました。長い間ありがとうございました。



就労継続支援事業B型

コン・ブリオ

ひだまり

食品販売飲食業/清掃

- 食堂(ランチ、ドリンク) ■ テイクアウト弁当
- 自然食品、フェアトレード商品販売
- 私立札幌病院床頭台清掃委託業務



春はいつ?

近藤 淳一

白い大地から土塊がのぞき、いよいよ、春の足音を感じる季節になりました。と言いたいのですが、やっと雪解けが進んだと思ったら、まさかまた積もるとは! 春の訪れを思わせておいての、なかなかの天気の良いめぐれ具合(笑)あ〜つ心地よい穏やかな小春日和はいつ訪れるのでしょうか…

そしてこれからの季節、春の食材がどんどん出てきます。菜の花、ふきのとう、タケノコ、いんげん、新玉ねぎ、サヤエンドウ、そら豆、イチゴ etc. いやあ〜とても美味しい食材のオンパレードじゃないですか! みなさんもどんどん春の食材を取り入れて、食卓に春の彩を加えてみてはいかがでしょうか?

ちなみにライフに入社して一年が経ちました。素敵なメンバーさんや、信頼の置けるスタッフに恵まれたと思う一年でした。

プライベートではなにも変化がなく、もう少しサワサワしたい今日この頃です。



家族旅行

村上 綾

3月に父とおじさんとおばあちゃんの誕生日で3人の祝いに温泉に行ってきました。ご飯がとてもおいしかったし、ホテルの自分たちのとまる部屋に温泉ついて、気持ちよかったです!

あと、兄ちゃんがプレステのVRをかってゲームして楽しかった。

今度いどこに誕生日プレゼントにかけてあげた任天堂スイッチであそぶのがたのしみです。



最近読んだ雑誌から



〜効率よく仕事をするための
脳の時間割のまとめ(一部)〜

横窪 友美

7:00~9:00

朝は頭がさえているので分析や決断に向いている。(特に朝食前)

9:00~12:00

集中力が一日で最高なので頭脳労働全般に向いている。

13:00~14:00

午後になると脳のパフォーマンスが落ちて眠くなるので、メールチェックなどの単純な作業に向いている。

14:00~15:00

どうしても眠くなる時間帯なので人と話をして脳を刺激しよう。ただしミスも多くなるので軽い打ち合わせぐらいにすること。

15:00~17:00

夜に向けて調子が上がりはじめる。自由な発想を得やすいので仕事の新規開拓をしよう。

17:00~19:00

脳の二度目のピークなので、頭脳労働全般に向いている。(特に企画立案)

脳に合わせればより良い結果が出せるでしょう。こういう知識はうまく活用したいですね!



たねや
キャラクター
タネコ

就労継続支援事業B型
共働サービス

たねや

店舗業務/清掃/軽作業

- 自然食品・雑貨などの販売、店舗業務
- 出張販売 ■ 清掃委託業務
- 軽作業



新年度を迎えて

増田 真理子

新年度の目標は水曜日と木曜日に出る事です。いつもは水曜日と木曜日は休んでます。すこしは休まないでいきたいなと思います。ほんとは用事とお出かけとびょういんとぐあいが悪かったらしていません。

水曜日はびょういんがあるのでお昼食べてから12:00に帰る事です。びょういんがない日は15:00までに帰る事です。

月・火・金は16:45までにしています。ぐあいが悪かったら早退します。

水・木は約束はしていませんので自由です。水曜日と木曜日に清掃があるときは行きます。びょういんと用事がある日は清掃は行きません。

新年度を迎えて水曜日と木曜日を仕事があつたら行けるようにがんばりたいのでよろしくお願ひします。



今年の酒井

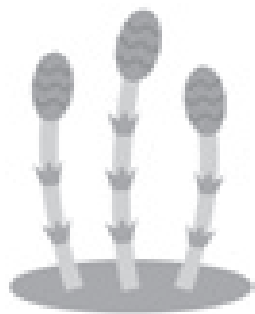
酒井 めぐみ

いつの間にか日が長くなり暖かい日差しを感じる季節になりました。昨年の4月1日にたねやに入つてもう1年が経ちます。

入つた頃は右も左もわからずにいましたが、やつと業務全体の流れがわかってきました。

今年は新年早々軽作業の仕事があり、忙しい日々が続きましたが、たねやのみんなと冗談を言い合ったり、真剣に話しあつたりとやりがいのある毎日をおくらせていただいています。

まだまだ覚えなくてはいけないことがたくさんありますが、これからもいい意味で適当に頑張つて行きたいと思ひます。



春夏秋冬

今野 美志

春は公園で日向ぼっこ。
夏は暑くて飲み物が欲しくなる。
秋は旬の食べ物(サンマ、栗、ハタハタ)。
冬は厳しい寒くなる雪投げ、寒い時には汁が欲しくなる。



北海道で買えるのはたねや
だけ!あさひやさんのおやこ
ほうじ



おやこほうじ《2種類》

..... [50g] 400円

..... [200g] 1,100円

奈良県で農薬も化学肥料も一切使わない自然栽培農法で育てています。

一般的なほうじ茶との違いは親葉だけでなく新芽と茎もつかつており味わい深いお茶です。カフェインがほぼ含まれず、お子様にも安心。

親子の茶葉が入つた親子で安心して飲める「おやこほうじ」きっと満足していただけると思ひます。



Facebook 『共働サービスたねや』のFacebookでも、商品情報などを随時更新していますのでぜひご覧ください。
随時更新中! <https://www.facebook.com/taneya.life> 共働サービスたねやfacebook **検索**



ヘルパー派遣業務・在宅介護支援
ヘルパーステーション

ゆい
繭結

ヘルパー派遣業務／在宅介護支援

- 居宅介護 ■ 訪問介護 ■ 重度訪問介護
- 介護予防訪問介護 ■ 福祉有償運送
- 行動援護 ■ 同行援護 ■ 移動支援

「介護側」と「当事者」 の高齢化

所長 佐々木 泰彦

繭結を立ち上げた当初、仕事に対しては「地域に住む障害者の一人暮らしのサポート」ができればという一点で働いてきました。また、私自身ヘルパーを利用しながら、一当事者の視点で社会の常識を覆すような対応をしていけたら、という思いで今日までやってきました。

その一方、最近改めて感じるがあります。ひとつは介護職の人材不足です。そして「サポートをするヘルパーの高齢化」と「利用者の高齢化」も考えていかななくてはならない課題として今回取り上げたいと思います。

僕も来年で還暦です。自分が60歳まで生きられるとは想像もしていなく、中学の頃は「もし親が亡くなったら自分も生きていない」と考えていました。それだけ親がいなかったら何もできない生活だったという事です。

28歳の時に「なんとか一人で生きていくんだ!」と考え始め、自立へ向けてのステップアップとして療護施設を選び入りました。12年間に渡る施設生活の末、40歳の時にやっとの思いで一人暮らしができました。

自立生活を始めるまでは、親と施設職員のお世話になっており、いろいろな手続きを任せていたので、本当に何もわからない事ばかりで、今となれば笑い話ですが、地下鉄の乗り換えに一度、幌平橋～大通までのキップを買い、再度、大通で他の路線のキップを買って目的地まで行ったという事もありました。

一人暮らしのきびしさを痛感しながらも、中央区で10帖のワンルームの部屋で「自分の鍵」が持てたことは、喜びはあったけれど、寂しさはなかったです。そして、一人暮らしを始めてまもなく豊平区にある小規模作業所で毎日働く事になりました。

その作業所で5年間活動をし、その後、介護の事業所を立ち上げることになり、周りの人たちに助けをもらいながら今年で14年目になります。

また、一人暮らしを始めてから4年後に結婚、子供も2人授かりました。今年で上の子が14才で、下の子が4月から小学校に入学です。

先日、卒園式の際、息子がしっかりした口調で「大人に

なったら大工さんになりたい」と話している姿を見て涙がでました。二人とも大きくなってくれたこと、そして、自立してから19年目になり、仕事と家庭を短時間で持つ事ができ、施設でのだらだら生活から一転、今は当たり前の生活を過ごすことができています。

ただ一つ、自らも感じていることですが、今後さらに高齢化が進むにつれ「一人暮らしの当事者は現状の生活を保つこと」が難しくなっていきます。その対応も含め、見直していかなければならない状況である事をヘルパー不足の実態から更に感じ取っているところです。

近年、昔のような「施設入所」ではなく、さまざまな障害を持った仲間と一緒に生活をおくり、日中活動を通してお互いの生活を補うことができる「共同住宅」の様な場所が増え始めていますが、その空間でもやはりヘルパー不足が絶えません。

ヘルパーも高齢化により働く場所を失っています。高齢でもまだ稼働できる方や、ボランティア精神の方たちもいる中、上手く共存できる空間を提供できないかと日々考えているところです。

「介護側の高齢化」と「当事者の高齢化」にともなって、働く場所を無くすのではなく、サポート側の支援も含めて共に過ごすことのできる、施設ではない「共同住宅」の様な場所が必要になってくると思います。

さいとうのヘルパー77講座「笑い」

笑いは免疫力や自己治癒力を高めるだけでなく、脳や記憶力にも良い影響をもたらします。

笑いによって脳波の中の α （アルファ）波が増えると脳がリラックスし同時に大脳新皮質に流れる血液量が増加して、脳の働きが活発になります。笑うとモルヒネの数倍の鎮静作用を持つといわれる β （ベータ）-エンドルフィンが分泌され神経痛や関節痛といった慢性的な痛みの緩和にも期待できるそうです。

そんな「笑い」を意識的に取り入れるようにしたいものですね。

α 波＝脳が発生する電気信号(脳波)のひとつ
 β -エンドルフィン＝脳内で働く神経伝達物質の一種で鎮痛効果や幸福感がえられる



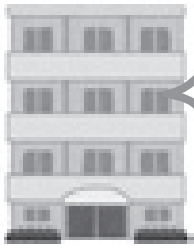
札幌市委託事業

アウトソーシングセンター

元気ジョブ

マッチング事業

- 民間・官公庁への営業活動
- 受注した業務の振り分け
- 授産品の販路拡大



民泊

伊藤 潤司

昨今、民泊を取り入れているマンションが増えていると聞くと、確かに大家さん、マンションの個別オーナーは、部屋を空室のままにしておくより、短期間でもホテル代わりに借りてもらい収益を出したほうが良いに越した事はない。

私が住んでいるマンションも民泊を取り入れている部屋がかなり多くなってきている様で、ほとんどが外国人で、ここ半年位で随分色々な国の人たちの出入りが目立つようになってきている。夜間マンションの入り口でビールを飲みながらたむろしている数人の外国人、この寒空に何をやっているのかと思う。まったく、治安が悪いものだ。

先日、私が帰宅したときマンションの入り口に2人の外国人男性がいた。何か嫌な予感を感じたが、いつもどおりにオートロックを解除して中に入ろうとしたとき、たどたどしい日本語で、“%&\$#@…イデスカ?”イデスカ?だけ聞き取れた。私は思わず“何が?”と怒り口調で返答しました。察しはつきませんがオートロックを解除出来ず中に入れないのであろう。マンションを借りているのかどうかも分からないのに、中に入れるのはどうなんだろうと思い。“入れないよ”と断った。しかし、残念ながらオートロックの

自動ドアは直ぐ閉まらず、その隙間を抜けて入り込んでしまい、彼らは、“アリガトウゴザイマシタ…”と言いつつエレベーターを使わず階段を駆け抜けて行きました。

その後もマンションの入り口で、誰かが出入りするのを待つ中に入ろうとしている外国人を見かける事がある。そもそも、部屋を貸すという事は、オートロックの鍵も渡しているはず。入れないのは、部屋を借りてないヤカラという事になる。

マンションの理事会でも、治安の悪さやオートロック解除待ちの外国人等は問題になっている、と言っているが個々に部屋の持ち主も違うため、なかなか対処方法がまとまらないと言う。今の所大きな問題は起きていない様だが、このままこういう事が、慣習化されると何時、問題が起きてもおかしくない気がします。

民泊はあくまでも期間貸しの繰り返し、借りる彼らに余り責任感が無いのも当然であろう。皆さんの周りではどうですか?



外注したい業務のある企業様に、その業務ができる施設をご紹介します!

役務 パソコン作業/テープ起こし/封入/シール貼り/草刈り/公園清掃/ポスティング/建物清掃 など

授産 印刷/ノベルティー制作/木工品/革製品/石鹸/パン/ケーキ/クッキー/野菜/お弁当 など

販売 出張販売/イベントなどでの出張販売/バザー など

その他さまざまにご相談に応じますので、

詳しくは、元気ジョブまでお問い合わせください! (TEL:011-596-6581)

~施設紹介やイベント情報掲載!~ **元気ジョブブログ** <http://www.genkijob.jp/blog/>



新年度を迎えるにあたり

所長 星力雄

もうじき春のかおりと共に新年度がやってきます。

この原稿を書いているのは、3月下旬、もじやの1年を通して最大の繁忙期、印刷工場も多忙の毎日でした。3月16日、17日の2日間には、キバリヤの皆さんにお手伝いをいただき、無事山を越す事ができました。その節はありがとうございました。工場の方も、この仕事が終わると新しい年度と春の訪れはもう目の前です。

時が過ぎるのは早いものです。ライフの新年会で今年の幕が開けたと思っていたら、既に3か月が過ぎ、すっかり日も長くなり暖かさも増してきました。ただ、ライフ内としては、委託事業の動向によっては春だからと気を緩めてはいられない状態です。(環境事業は、4月からも引き続きライフで行うとの一報が入り、厳しいながらも一安心です。)

今後何があっても、徐々に復活されている石澤代表を中心に、皆で力と心を合わせて乗り切っていきましょう。

新年度も、ライフ同様もじやを宜しく願いいたします。お世話になります。

掃除道 講演会 鈴木 麻依

『ひきこもり、ニートを共に考える 心の発見・大地の会』主催の『掃除道で心を磨く講演会』のチラシをもじやで制作したことがきっかけとなり、3月11日(土)に西田さんと2人で、大通西19丁目の札幌市社会福祉総合センター3階の会場へお手伝いに行きました。

私は、イベント開催の挨拶をさせて頂いたり、当日会場で販売された『掃除道』という本のポップ作りをしました。

開催の挨拶は、今回で2回目だったので、初めての時と比べ、あまり緊張もなく、わりとスムーズに挨拶することが出来ました。

会場には、多勢の皆さんが講演会を聴きに来てくださいました。

その後、講師の藤田 康洋(こうよう)さんの

交流会もあり、とても穏やかで楽しい時間を過ごす事が出来ました。

講演会の帰りには、同じく、もじやでチラシやポスター等を制作したイベント『7年目の3.11』の会場(札幌駅前通側にある地下歩行空間)を西田さんと少しだけ見て回ったり、札幌駅地下街にある居酒屋『山の猿』で、2人で夕飯を食べて帰りました。

ひと仕事終了後のお酒は格別で、非常に充実した楽しい1日でした。



札幌市リサイクルプラザ

発寒工房

環境事業／障害者・高齢者雇用促進

■木製家具や子供用遊具の修理・提供 ■自転車の修理・提供

**札幌市リユースプラザ**

環境事業／ごみ減量活動

■家具の洗い・簡易修理 ■資源物回収 ■木製家具や子供用遊具などの販売
■リユース自転車抽選販売 ■環境イベント、講座など

厚別地区リサイクルセンター併設

**札幌市リサイクルプラザ発寒工房
7年目に入る委託事業**

発寒工房 ジョン・ウルク

4月に入り日々雪溶けはあっという間に進んで花咲く日を楽しみに待っています。工房の皆さんにとってこの春先はとっても厳しかったと思います。

3月に委託期間が終了し、新たな事業者を選定するための入札がありました。その結果、ライフが札幌市リサイクルプラザ発寒工房及びリユースプラザなどの委託事業を引き続き行うことになりました。

今回でこの事業はライフにとって3期目に入りま

す。事業内容の大半は以前と同じですが工房の事業は縮小する方針に変わりました。新しい環境を整え皆さんが慣れるまでは時間がかかりそうです。それから生産性、効率性、経済性に囲まれて障害者と高齢者の従業員が勤め易い環境をどうやって保つかが課題です。

最後に、今後とも皆さんが勤め易い職場作りの対案を求めて努力していきたいと思います。

リユースプラザの4月から

リユースプラザ館長 松永 クニ子

NPO法人ライフが3度目の入札によって2年6ヵ月、またリユースプラザの管理・運営を任されました。入札決定、契約までには紆余曲折があって冒頭で石澤専務から秋元市長への訴えとなりました。



平成21年4月から開館したリユースプラザの認知度は大きく広がり、近年マスメディアに大きく取り上げて頂く機会が増えています。2月の冬のイベントや、施設紹介で北海道新聞に掲載して頂きました。3月入ってからは4日(土)にはSTVラジオ「日高晤郎ショー ひるノリ歌謡曲」の30分の生中継出演、更に17日(金)にはSTVテレビのどさんこワイド朝の放送中にGボタンで広報さっぽろを観ることが出来る～で、リユースプラザを写真入りで紹介して頂きました。4月に入ると4日(火)にはHBC

テレビ「今日ドキッ!」こちらも生中継、7日(金)はNHKテレビ「ほっとニュース北海道」での紹介で、来館者はドンドン増えている状況です。そして取材を受ける度に、ディレクター、アナウンサー、カメラマン、音声の方々が「リユースプラザに初めて来ました。」という第一声があ

り、取材が進むにつれて「暮らしに役立つ施設」と言って頂いています。市民の暮らしに環境のこと、ごみ減量のこと周知し暮らしに役立つ施設であると自負出来る施設になっているのに…平成31年4月には10周年を迎えるリユースプラザですが、今後どのように変化していくのでしょうか? 一抹の不安を抱えたスタートとなりました。

これから、7月以降のイベントの開催日時については、決定次第お知らせしていきます。今後も皆さま方のご協力をお願いし、職員一同一丸となって札幌市リユースプラザ業務を遂行していきます。

**イベントの予定****5月20日(土) 春だ!桜だ!リユースまつり****6月17・18日(土・日) てらこやリユース**

★5月のイベントには、互久楽さんの鼻笛演奏と南京玉すだれがあります。

ライフで共に働く

障害者メンバー募集中♪

ライフでは、色々な職種の事業を展開しています。一度働いてみて自分に合わないな—と思ったら、ライフの中で別の職種を探すことも出来ます。お気軽に、自分にピッタリのお仕事探しをしませんか？



元気いっぱい「こころや」のメンバー

就労継続支援事業B型



共働サービス たねや

たねやでは店舗販売・出張販売・清掃委託業務・軽作業を行っています。

店舗では「体に優しい」食品や、手づくり雑貨を厳選して販売。現在は販売に力を入れていることもあり、接客に興味がある人は特に大歓迎です。その他、清掃や軽作業に興味がある方も是非下記までご連絡ください。



お問い合わせ ☎011-613-0611

毎日元気に出働できる方優遇します！ 担当：奥井

就労継続支援事業B型

キッチンとこだわり品の店

コン・ブリオ ひだまり

コン・ブリオひだまりでは、店内でのお食事とテイクアウト弁当作りのほか、体に優しい商品を元気いっぱいの接客で販売しております。

料理が出来なくても、経験がなくてもスタートは一緒です。皆が優しく教えてくれますよ！ひだまりで一緒に働いてみませんか？



お問い合わせ ☎011-615-4131

担当：小野寺・秋元

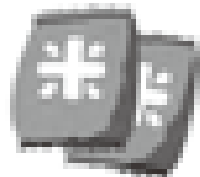


生活介護型事業

こころや

k o k o r o y a

2016年1月から生活介護事業所になりました。これからは仕事だけにこだわらず、ゆっくりとした時間をすごしていきたいと思えます。



安全安心なお米の卸し、販売はこれからも継続していきます。

一度、見学だけでもしてみませんか？連絡お待ちしております。

お問い合わせ ☎011-614-1871

担当：田中・小黒

ライフ事業所一覧

◇NPOライフ本部事務局

TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323

共働事業所さびりや

TEL 011-644-5533 FAX 011-613-9323

こころや

TEL 011-614-1871 FAX 011-613-9323

〒063-0812

札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F

コン・プリオひだまり

TEL 011-615-4131 FAX 011-615-4132

〒063-0812

札幌市西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F

共働サービスたねや

TEL 011-613-0611 FAX 011-644-0088

ヘルパーステーション繭結(ゆい)

TEL 011-623-2505 FAX 011-644-0088

〒063-0804

札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F

アウトソーシングセンター元気ジョブ

TEL 011-596-6581 FAX 011-596-6582

〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園103

共働事業所もじや

TEL 011-596-6583 FAX 011-596-6584

〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園104

相談室らいふ

TEL 080-6076-1474 FAX 011-596-6584

〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園203

Cafe de Kibariya(カフェ・ド・キバリヤ)

TEL・FAX 011-758-6533

〒060-0808

札幌市中央区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内3F喫茶コーナー

リサイクルプラザ発寒工房

TEL 011-662-7815 FAX 011-662-7816

URL <http://www.reuseplaza.jp/10hassamu.html>

〒063-0835

札幌市西区発寒15条14丁目2-30

札幌市リユースプラザ

TEL 011-375-1133 FAX 011-375-1155

URL <http://www.reuseplaza.jp>

〒004-0003

札幌市厚別区厚別東3条1丁目1-10

4月

イベントカレンダー

今月のイベントの予定はありません

5月

20日 札幌市リユースプラザ

土

春だ!桜だ!リユースまつり(子どもまつり)

10:00~15:00

25日

木

たねや

あったまるしえカイマチ開催

ちかほ 憩いの空間(sitatte sapporoのすぐそば)

26日

金

10:00~17:00

最新の情報は、
ホームページを
ご覧ください!<http://www.npolife.net>

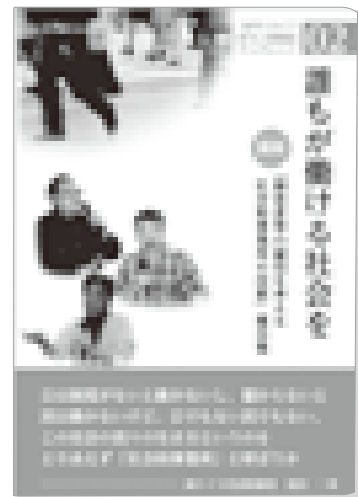
NPOライフ

検索

NPOライフブックレットのご紹介

誰もが働ける社会を

講座「障害者の雇用を考える社会的事業所の役割」報告集

震災復興は雇用の創出から
いまこそ社会的事業所の
出番です!

社会的困難を抱える人たちとの「共働」をめざす、「社会的事業所」制度の法制化は急務であります。社会的事業所とは何か? その理念と実践の取り組みが解りやすく語られています。

NPOライフブックレットNo.2

A5判 140ページ

定価 1,000円(送料別)

ブックレットのお申込みは、NPOライフ本部事務局まで!
メールでのお申込みは → main_lifemail@npolife.net

ご協力ありがとうございます(順不同・敬称略)

アドボケ購読料 崎廣 秀樹 石澤 利夫 近藤 邦雄 仙庭 奈央子 小倉 菜穂子 北海道住宅販売(株)

寄付金 エコフィスジャパン(株) 星野 輝明 石本 路子 鐘ヶ江 寿美子 匿名希望1名

賛同会員会費 宮村 もと子 近藤 邦雄 須藤 亜紀 打矢 美和 北海道住宅販売(株)

維持会員会費 石澤 利夫 河井 裕行

寄付金(ビル建設) 鳥居 一頼

ライフカンパのご案内 ~だれもが地域であたりまえに暮らし、働くことができる社会を作ろう~

ライフは障害の種別を超え、「働きたい」と願う人の気持ちを繋ぐために25年以上活動を続けてきました。これからも、障害のある人ない人をはじめ、社会的に不利な状況にある人たちも含めた、共に働き共に生きていく「社会的事業所」づくりをすすめていきます。ライフの活動に共感してくださる皆様方からの応援を是非ともお願いいたします。

| お振り込み先 | 口座番号/加入者名 |
|--------|---|
| 北洋銀行 | 琴似中央支店 普通預金 4606735 特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ 理事長 我妻 武 |
| 札幌信用金庫 | 琴似支店 普通預金 3296744 特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ 理事長 我妻 武 |
| ゆうちょ銀行 | 振替口座 02710-4-63485 NPO札幌障害者活動支援センターライフ |

月替わりコラム
~私のオススメ~

映画「舟を編む」

発寒工房 齊藤 洋平

テレビを見る・芝居を観る・患者を看る、読み方は同じでも状況に応じた言葉の使い分けは、ややこしいそのものであり、普段細かく使う機会はないかもしれません。

そうした本来の意味を伝える国語辞典「大渡会」の製作に携わる主人公の馬締光也の姿勢と根気強さ、そして変人呼ばわりされていた彼が職場や下宿先の人々を通じて社会との関わりを持つ大切さを133分の鑑賞で知ることができました。

中国の思想家、哲学者である孔子の言葉で「止まりさえしなければどんなにゆっくりでも進めばよい」という言葉があります。言葉の解釈に長い年月を用し、忍耐力を必要とする地道な作業ですが、同じ志を持った仲間との意識の繋がりがあってこそ達成できるものであると思います。今まで見えなかった時点の奥深さを知ることができ、一語一句の自立性を学ぶことができました。



舟を編む(2013年)
監督:石井裕也 脚本:渡辺謙作
原作:三浦しをん
出演:松田龍平/宮崎あおい

編集後記

この時期は、出会いと別れが重なる時でもあります。ライフで長年苦楽を共にお仕事をしていたいたTさんが定年退職となった。ライフが大変だった頃からお仕事をしていた。残念だが、残った職員たちに思いが受け継がれていくことを願っている。さらにライフでは札幌市や民間企業から委託事業を頂いているが、民間企業からの委託で行っていた市立病院の床頭台清掃が継続とはならず契約終了となった。一方、札幌市のリサイクル関係事業の委託は継続とはなったが、諸々の課題は残った。市立病院の仕事がなくなったことで仕事をしてきた事業所の収入ダウンとなる。ライフ全体でも、これまでの仕事から脱却して、新たな仕事、働き方を模索しなければいけない。(タケ)

おどばけい
2017年 4月号
No.196 定価 100円

2017年4月10日(毎月10日発行) HSK通巻番号541号 1973年1月13日第3種郵便認可 発行人=北海道障害者団体定期刊行物協会
編集者=我妻 武
◇特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ
〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323
E-mail main_lifemail@npolife.net ホームページ http://npolife.net/ 郵便振替口座 02710-4-63485